

2006年12月8日

半田労働基準監督署 様

日本共産党知多地区委員会

同 半田市議団

PCB廃棄物処理施設「労災かくし」疑惑解明の要請書

日頃の労働行政のご奮闘に、敬意を表します。

さて、日本車両が半田市11号地に建設したPCB廃棄物処理施設は、現在、非PCB油による負荷試運転が行なわれています。しかし、その試運転は「処理反応が不十分で、安定的なデータが出ない（日本車両）」等、再三にわたり追加試験が繰り返されています。

こうした時期に、私ども党知多地区委員会へ匿名による電話が2本入りました。内容は「日本車両で事故があり、ケガ人が出た」旨の訴えでした。2本目の相手方に「前に電話をいただいた方か」との問いに「はじめて電話をした」と言うものであり、別方向からの電話と知り、事の信憑性が高いと、以下の理由からも感じるところです。

私どもは今日まで、「PCB廃棄物の処理施設計画や、処理方法等に問題がある」と、事業計画が明らかになった4年前から、施設の問題や処理技術の安全性などの検証に取り組んできました。今日に至って「データが出ない」等と追加試験を繰り返し、足踏みしている処理施設が、一步も前に進めない状況にある日本車両にとって、「データをクリアさせるために、設備に手を加えるのでは…」と懸念していたところに、この事故＝労災情報です。前後して、施設に出入りする工事業者を確認し、半田市環境センター職員による設備状況の確認に立ち入りを求めました（11月9日）。これに対して、日本車両は「1年前、原水タンクに水圧をかけすぎて上蓋が膨らんだ。今、これを修理に出している」と、説明（11月10日）したそうであります。

しかし、「1年前にトラブルがあったのか」も「それに伴う修理か」も、問うて初めての弁明であり、事の真相は不明です。匿名情報にあるように、今回、設備に何らかの手を加えていて不測の事態が発生した。しかし、何処にも報告せず、労災事故は秘匿し、原水タンクは取り外して修理に出した…、今回の立ち入りが無かったら、誰に知られることなく事故の隠蔽と修理を秘密裏に行って、原水タンクを元どおりに戻そうとしていたのでは、と充分に考えられる電話情報です。現に「設備改修という重要案件」を報告せず、9日の立ち入り確認の際、初めて市側に明らかにしているのです。加えて、半田市環境センター職員が立ち入った際に、出入りの業者は施設敷地から出て岸壁で待機し、市職員が帰ると、再び処理施設に戻るといふ不可解な行動をする作業車両も目撃されています。

こうした中での、2本の「事故の発生と、ケガ人」の情報が寄せられたのです。12月6日の市議会での質問に対し、市は「事故報告も、これに類する報告もない」旨の答弁でした。しかし、日本車両のPCB廃棄物処理施設をめぐる企業姿勢については、半田市議会からもその姿勢を問う決議が全会一致で採択されました（本年3月議会）。これまでの経過を重ね合わせると、「1年前のトラブル」とか、「その修理を今」等という、日本車両の説明には全く説得力がありません。むしろ、PCB廃棄物処理を営利事業化するためには、労災事故は絶対に秘匿しなければならなかったのでは…と、逆に「労災かくし」の疑惑が広がるばかりです。こうしたことから、下記の事項について貴職に要請するものであります。

記

(1) 11月以降、日本車両が建設したPCB廃棄物処理施設における事故報告、あるいはこれに類する報告書は提出されているでしょうか。

(2) 貴職にも事故・労災情報は届けられていますか。PCB廃棄物処理施設に対して、貴職が立ち入り、あるいは日本車両から事情聴取をされたことはあるでしょうか。

(3) 上記1. 2の事実がなければ、「事故があり、ケガ人が出た」との匿名情報の真偽を確認していただきたく、PCB廃棄物処理施設への立ち入り調査をお願いします。

なお、上記の結果について貴職の返書がいただけたら幸いです。併せて、要請いたします。